

今年の夏の特徴は「気温が高く蒸し暑く、雨が多かった」と言えます。月別にみると6月は、低気圧が日本海から北海道付近を次々と通ることが多く、月の総雨量も227.5ミリと平年の3.6倍に達しました。日雨量0.5ミリ以上の日数は14日と月の半分は雨が降りました。平均気温は、南からの暖かく湿った空気が入ったため、14.7度と平年並みでした。日照時間は、雨の日が多かったこともあって平年の7割程度でした。

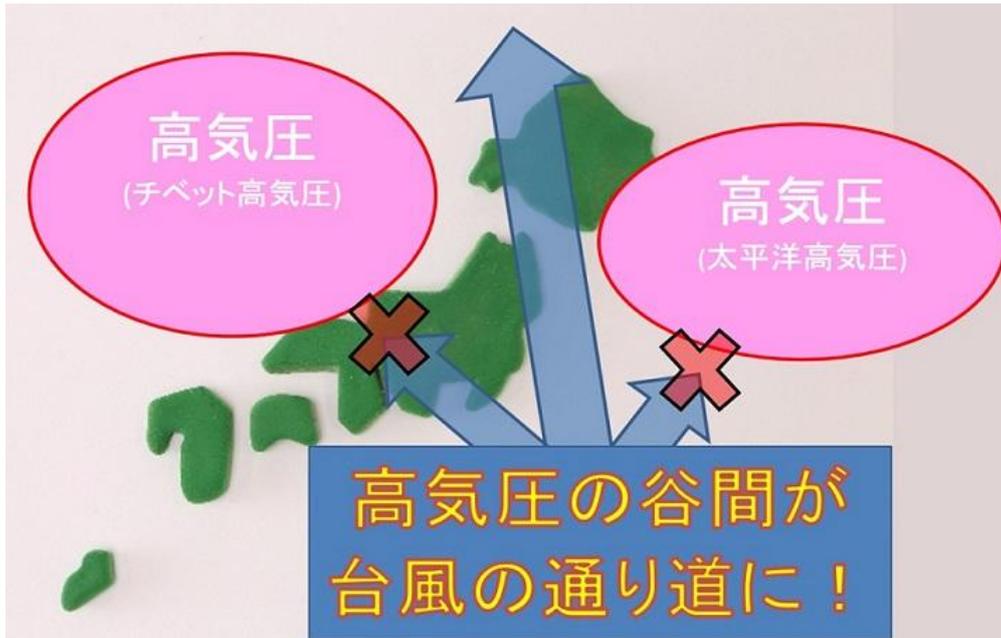
7月は、雨の降る時期と降らない時期が交互に現れましたが、27日～30日は前線や低気圧の影響で大雨となりました。平均気温は、1ヶ月を通して南よりの風が多くなったため（最多風向は南風で27日間）平年並みの18.5度、日照時間も平年並みの133.8時間でした。

8月は、前半晴れる日が多かったのですが、16日～17日には台風第7号が襟裳岬付近に上陸後、オホーツク海に進みました。これにより、恵庭では16日～17日の2日間で100ミリの大雨となりました。また、20日～23日には台風第11号、第9号がそれぞれ釧路付近、新ひだか町付近に上陸した後、オホーツク海に進みました。これらの台風により常呂川や石狩川下流が氾濫し、床上浸水や農地の冠水など重大な災害が発生しました。1週間の中に3個の台風が北海道に上陸したのは1951年の統計開始以来、初めてのことです。

また、月末の29日～31日には、台風第10号が東北地方を通過して渡島半島に進んだため日高山脈周辺では総雨量が300ミリを超える大雨となり札内川が氾らんしました。これら4個の台風により、道央～道東にかけ大雨・洪水・浸水・崖崩れ・河川の氾らん等重大な災害が発生しました。従来、“北海道を台風が直撃することはない”言われてきまし

たが、今年はまだかつて無い状況となりました。

この原因は、太平洋高気圧が例年に無く北に偏った事とチベット高気圧が強く、この二



つの高気圧の間を
通って台風が北上した
ためと考えられていま
す

(左図参照)。

このような状況が
今年限りなのか、今後
も続くのかは分かり
ませんが、今までの常
識？が通用しなくな
ってきたのかもしれ
ません。(文責:清水)